

1

「放送大学愛知学習センター所属学生」の 地域貢献活動動向調査 アンケート結果

アンケート班

神原 和子

水谷 啓子

長谷川 均

2

1. はじめに

- 近年、大学のミッションとして教育、研究に加え、地域貢献が求められている。
- 放送大学愛知学習センター所属学生を対象にアンケート調査を行い、放送大学生の地域貢献活動の実態把握を行った。
- 調査結果を今後の放送大学生の地域貢献活動についての方向性について提言する。
- 学生の地域貢献活動意識を把握した報告はない（平成26年3月現在）。

3

2. 調査方法

- 愛知学習センター所属全学生（2,978人）を対象として、質問紙形式のアンケート調査を実施した。
- アンケート配布方法は、学習センター発行の機関誌「しりあい」に同封し、回収は同封した返信用封筒による返送によりおこなった。
- アンケートは原則無記名方式でおこなったが、地域貢献の経験のある者へのインタビューに同意される方には、記名を依頼した。

4

3. 結果及び考察

- 3-1. 回答状況と調査対象者の属性
- 3-2. 地域貢献活動への参加経験
- 3-3. 今後の地域貢献活動への参加
- 3-4. 地域貢献の活動分野
- 3-5. 地域貢献参加への鍵となるもの
- 3-6. 学習センターへの要望

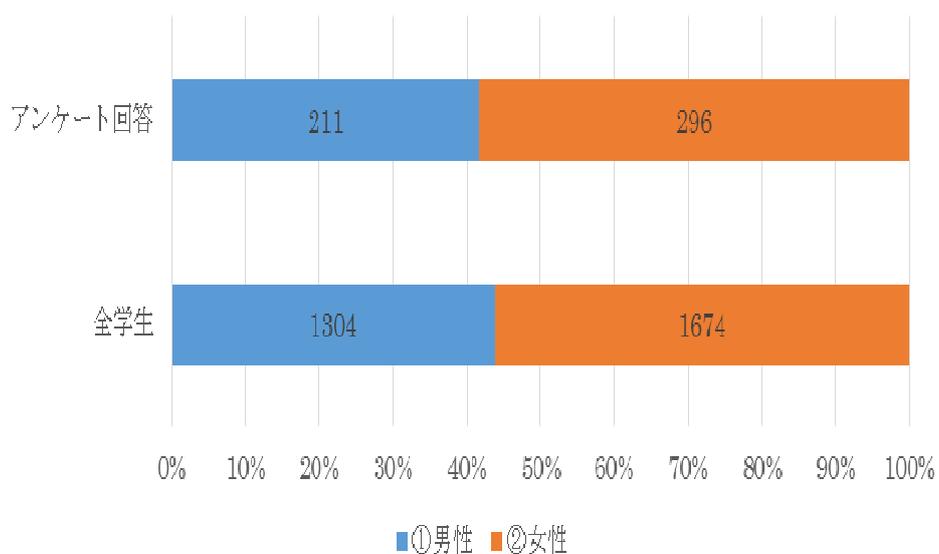
3-1. 回答状況と調査対象者の属性

- 発送数：2,978人
- 有効回答数：507人
- 有効回答率17.0%

- 全学生の男女構成比率とアンケート回答者の男女構成比率はほぼ同じレベルにあり、アンケート回答は男女比率について母集団の傾向を反映している。

性別回答率

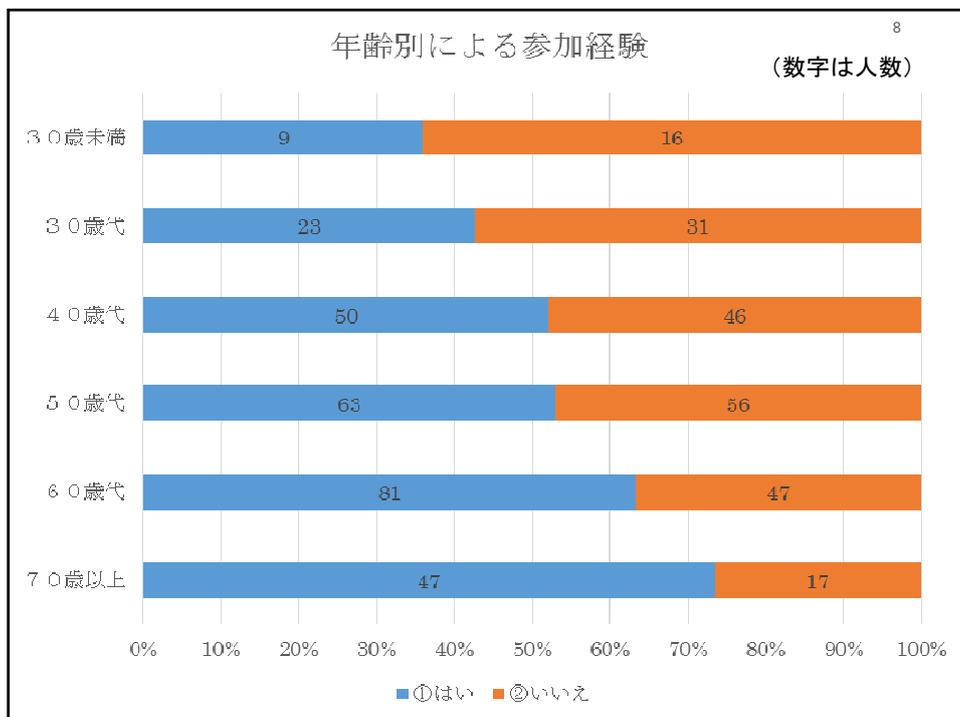
(数字は人数)



3-2. 地域貢献活動への参加経験

(質問4)

内容：地域貢献活動に参加したことは
ありますか



9

3-3. 今後の地域貢献活動への参加

(質問10)

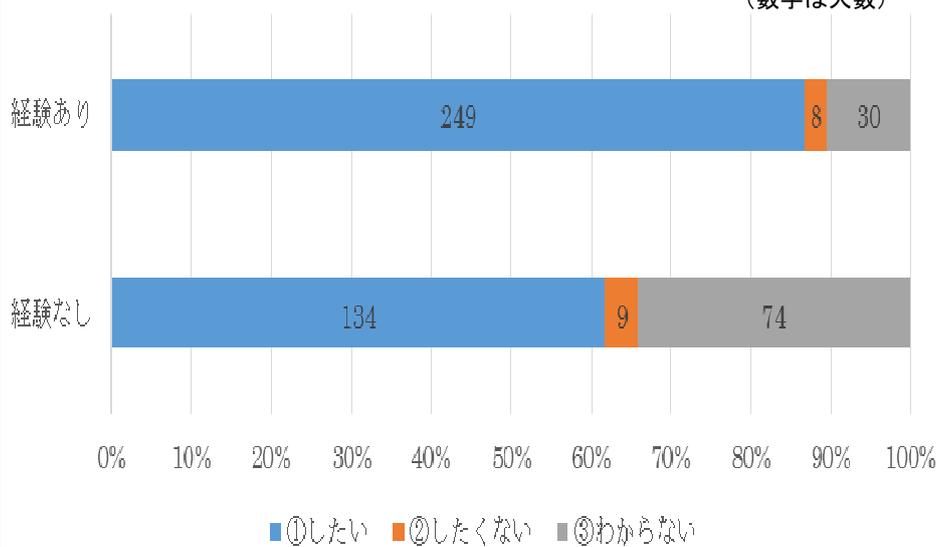
内容：今後、地域貢献活動に参加したい
と思いますか

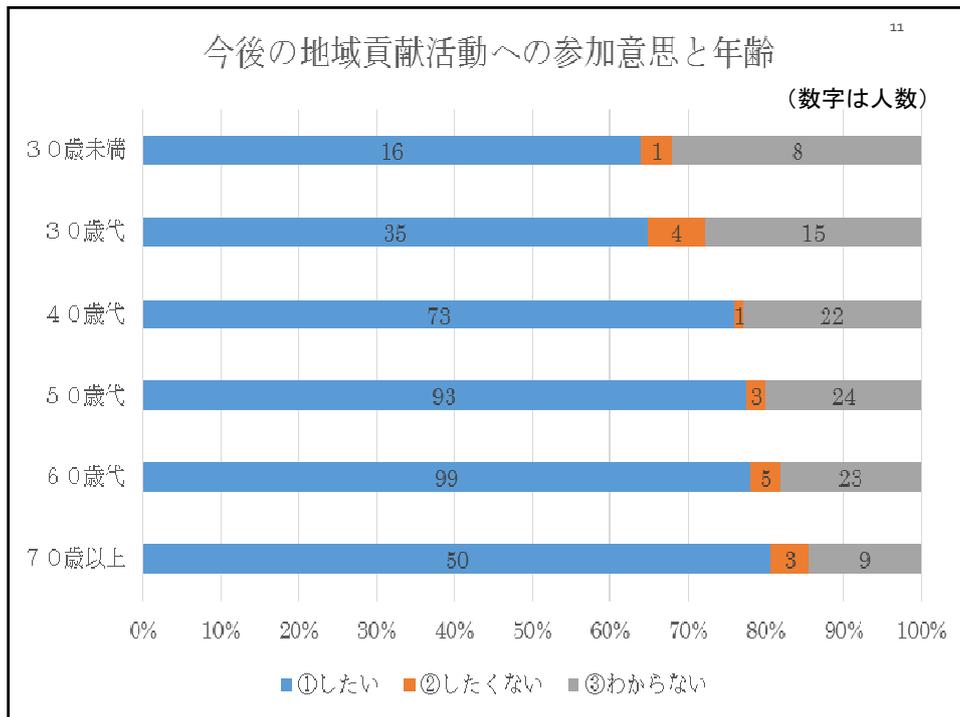


10

今後の地域貢献活動への参加意思と経験有無

(数字は人数)



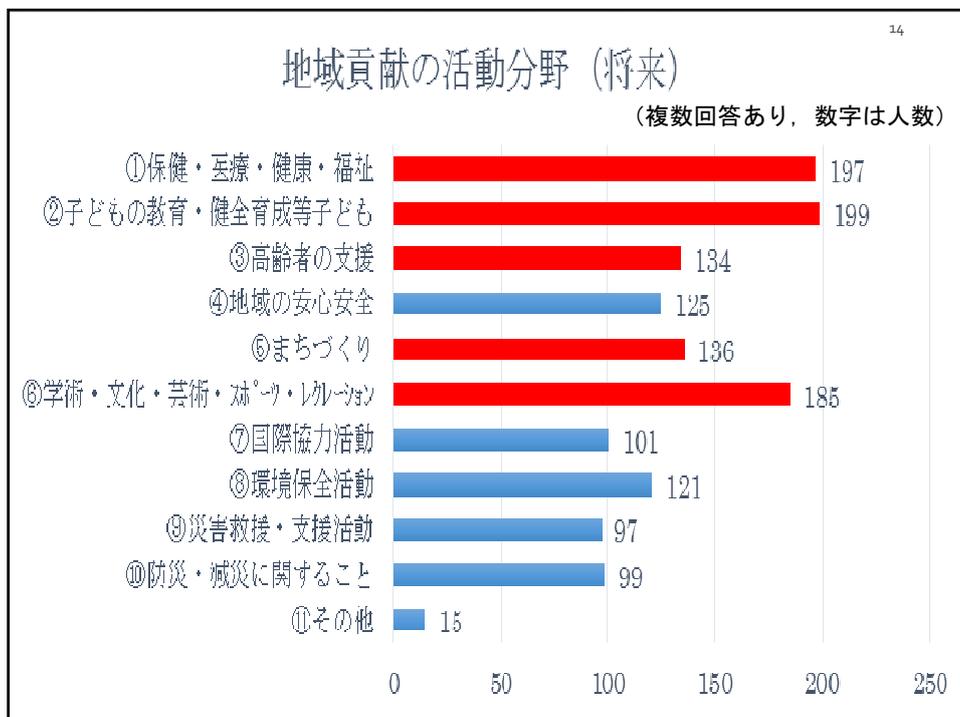
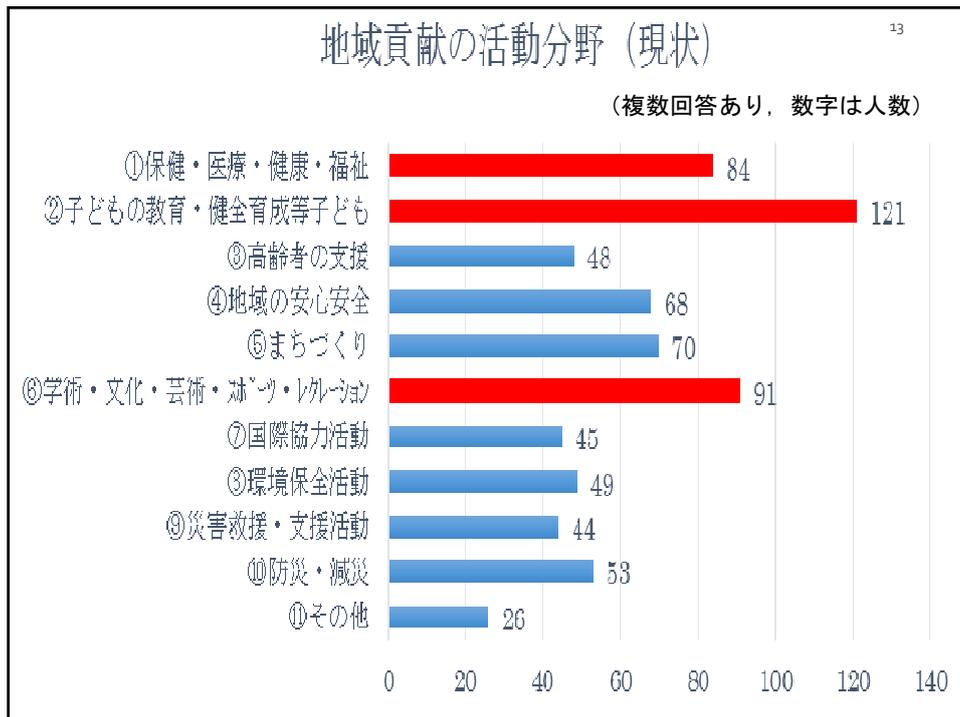


12

3-4. 地域貢献の活動分野

現状（質問5）
内容：あなたは今までどのような地域貢献活動に参加されましたか

今後（質問11）
内容：今後あなたが地域貢献を行うとしたら、どのような内容の活動に参加したいと思いますか



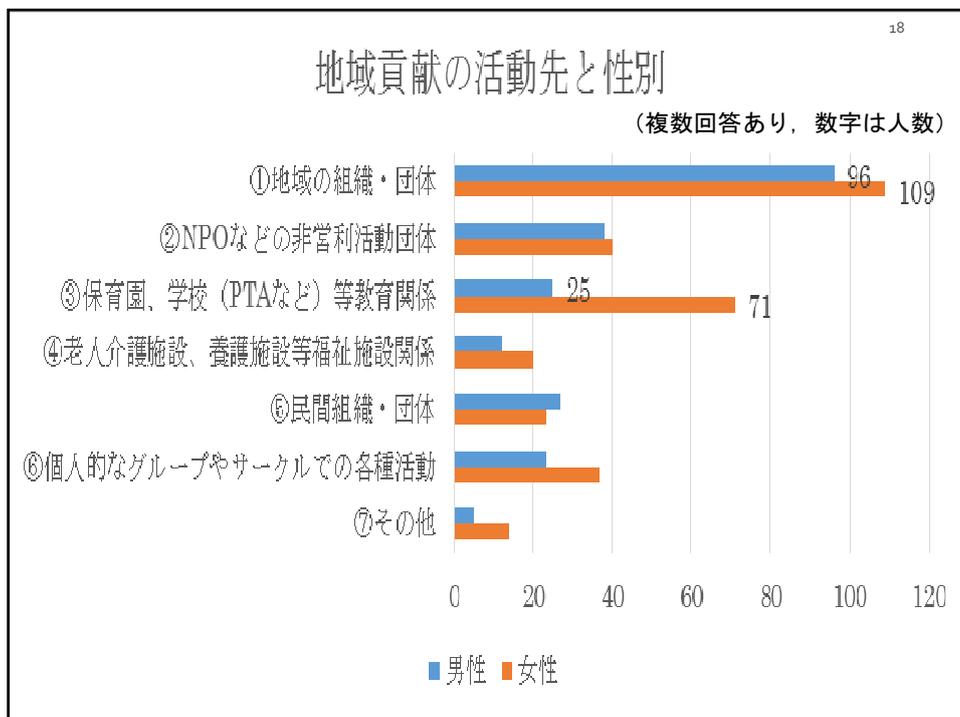
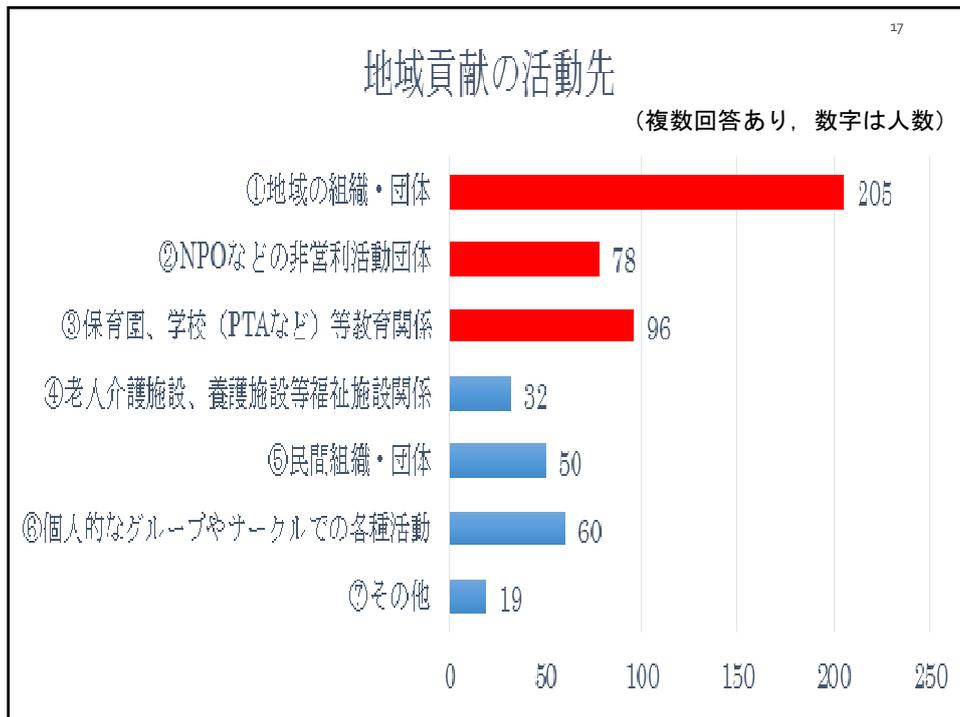
15

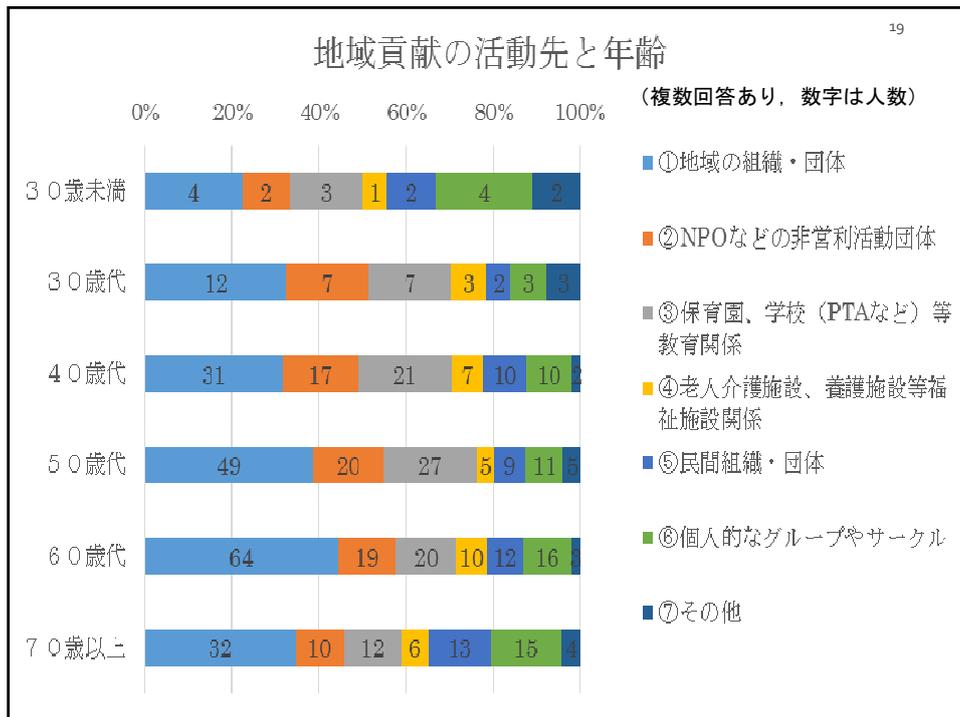
- 年代によって関心を示す分野に変化がみられる。
- その変化の根幹にあるのは、自身の加齢に伴い関わる分野に変化がみられる。

16

(質問7)

内容：あなたはどこで地域貢献活動を行いましたか



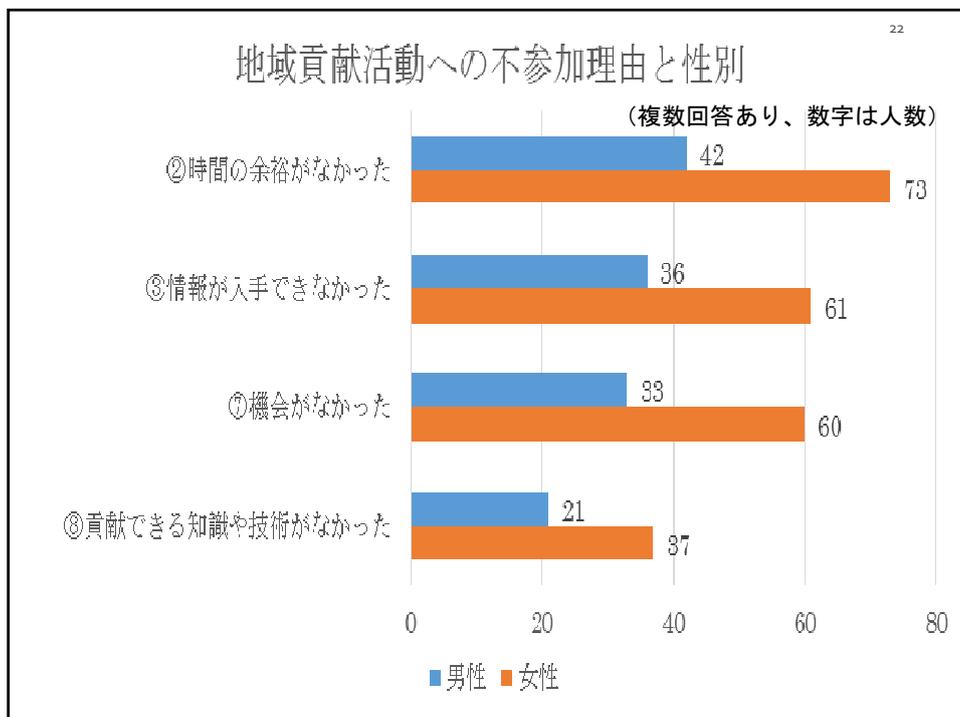
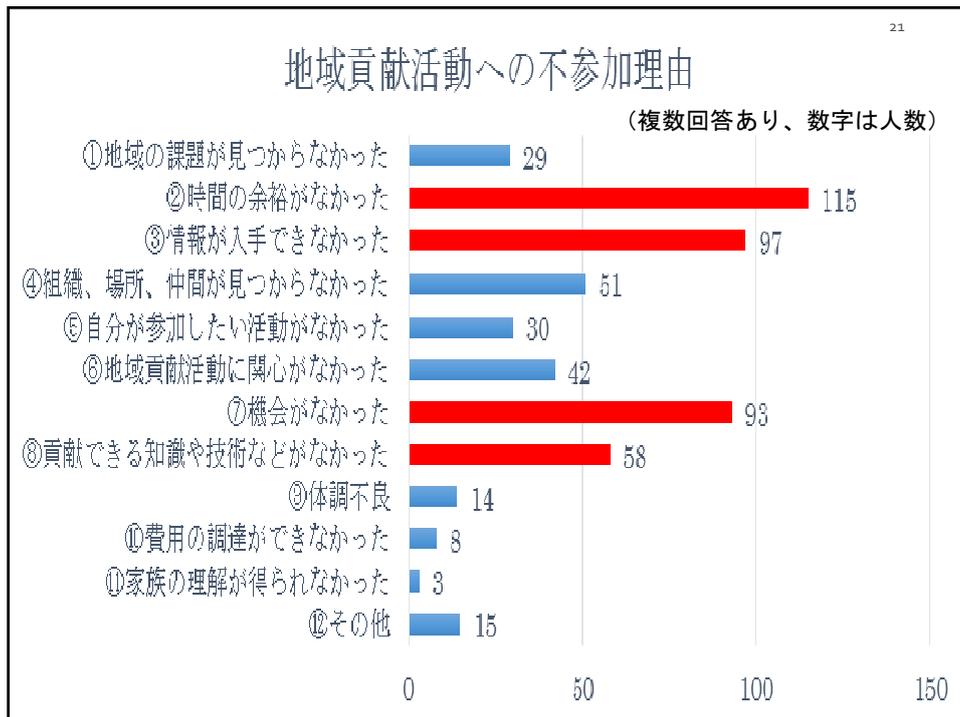


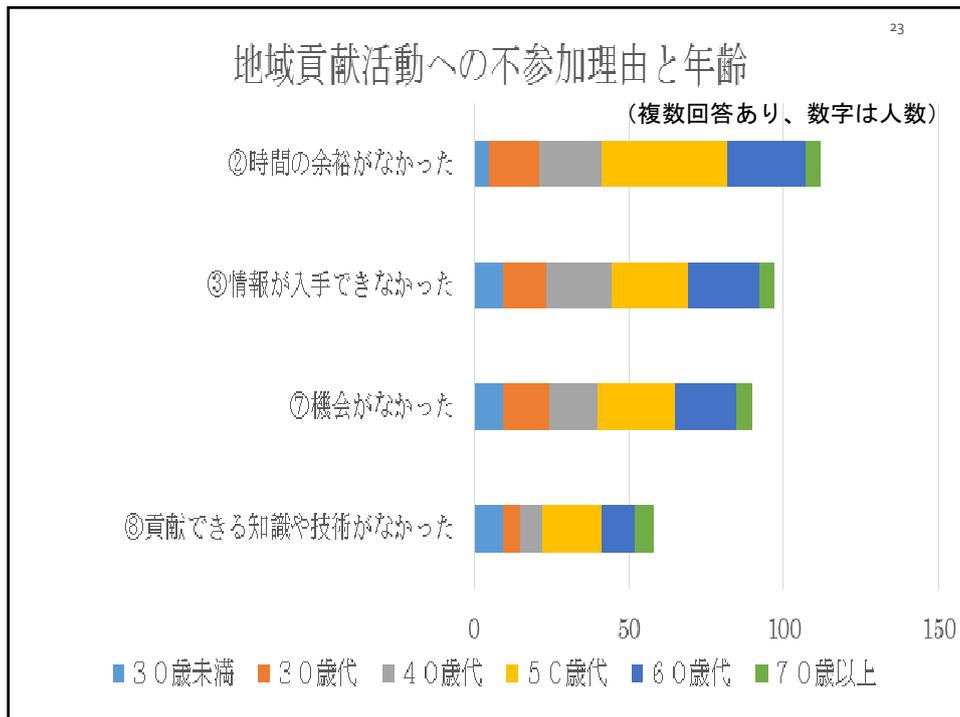
20

3-5. 地域貢献参加への鍵となるもの

(質問9)

内容：あなたが地域貢献活動に参加されなかったのはなぜですか

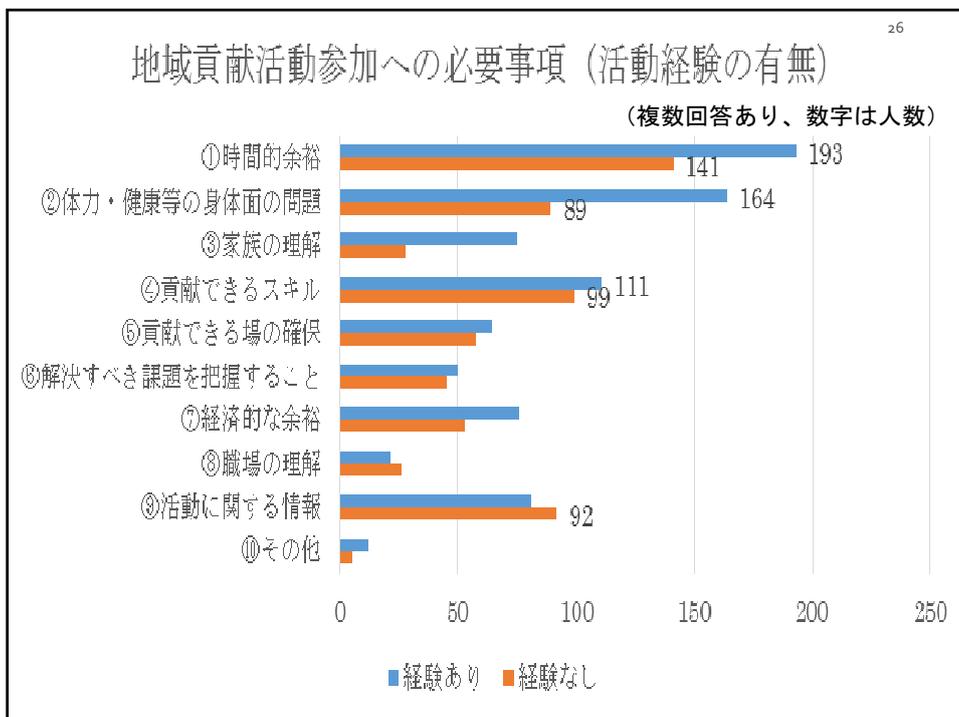




- 24
- 「貢献できる知識や技術がなかった（「スキル不足」という）」が不参加の理由としているのは30歳代未満と50歳、70歳以上であり、30歳代、40歳代においては「スキル不足」は理由ではない。このことは仕事や社会経験を積んできている証ではないか。
 - このことから地域貢献に参加する要件は「活動に関する情報」「機会」が設けられれば参加出来る学生がいるようである。

25

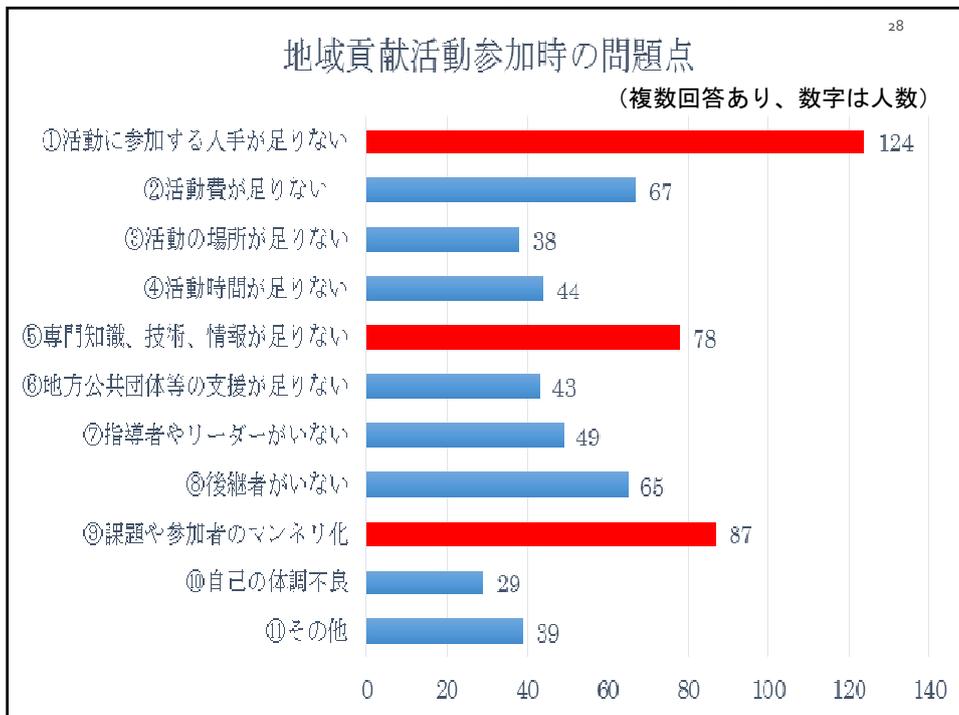
(質問 1 2)
内容：あなたが地域貢献活動に参加するために必要な事項は何ですか



27

(質問 8)

内容：あなたが地域貢献活動をされて、問題であると思われたことはありますか



29

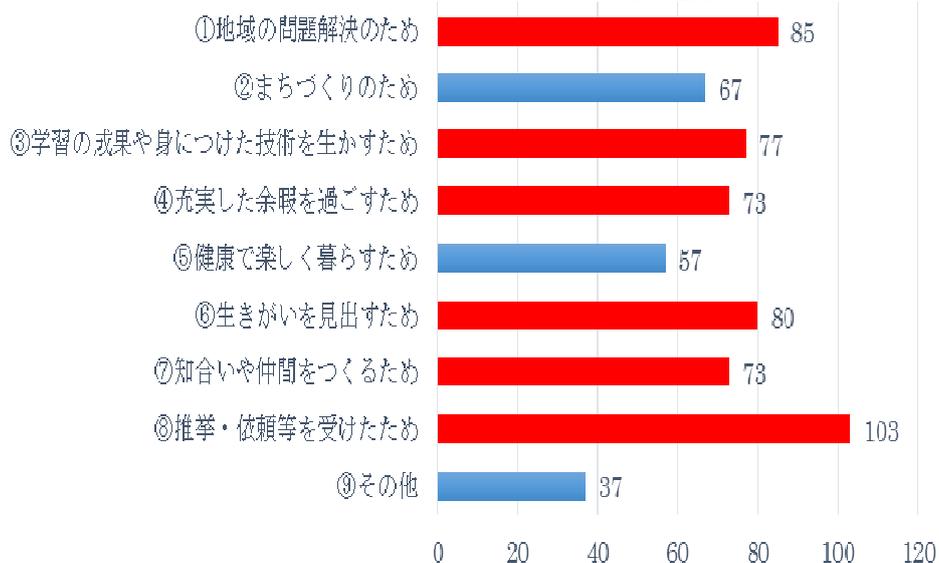
活動への参加理由

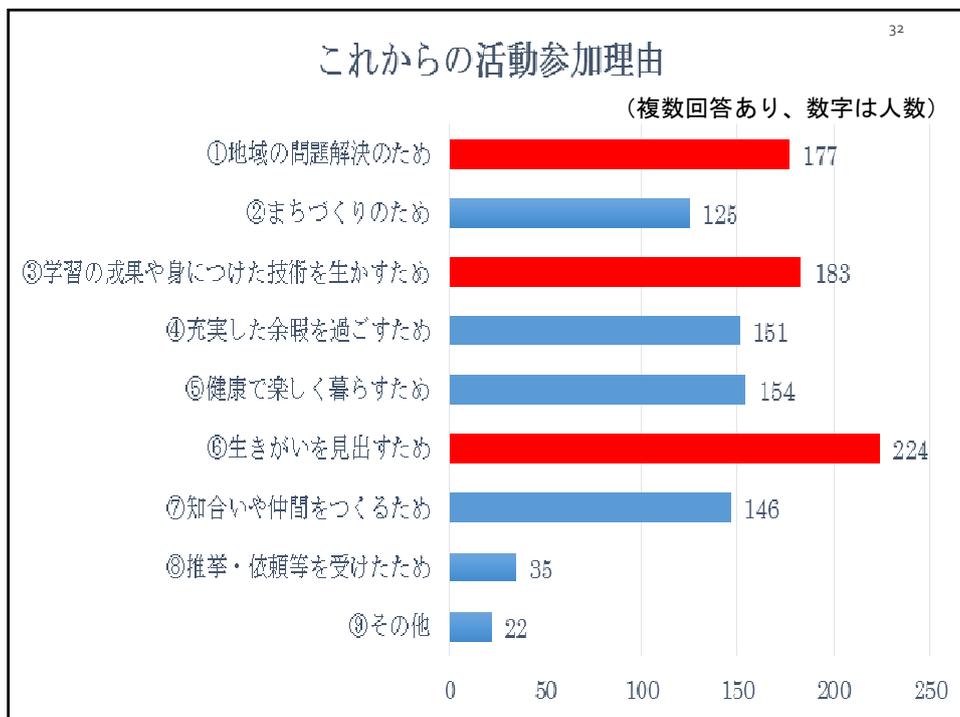
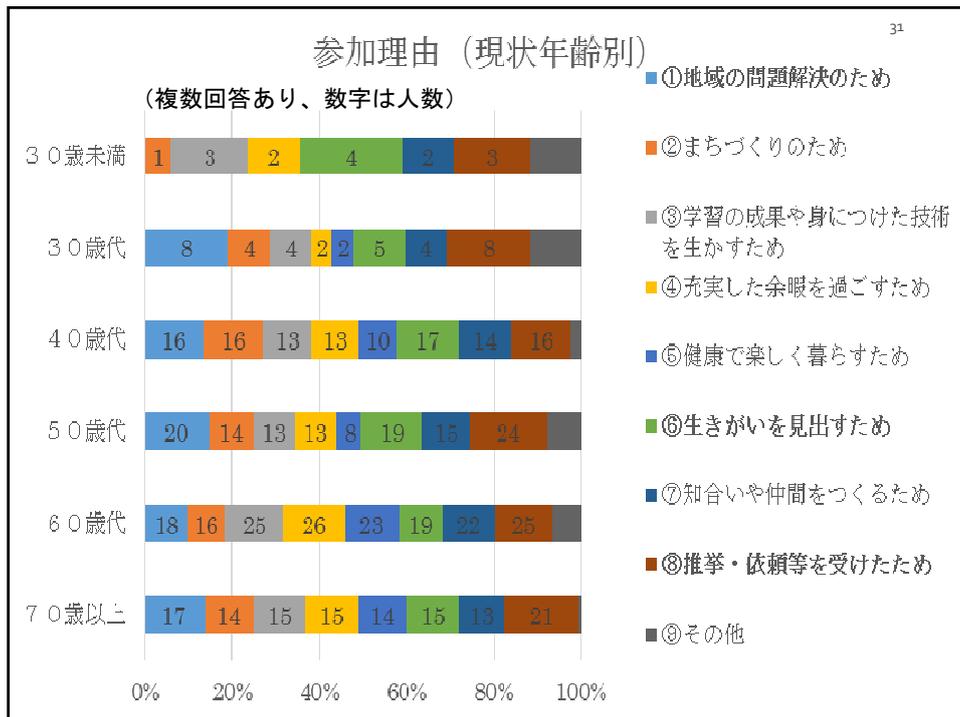
- 現状
(質問 6)
内容：あなたはなぜ地域貢献活動に参加されましたか
- 今後
(質問 13)
内容：あなたが域貢献活動に参加する条件が整った場合の参加理由は何ですか

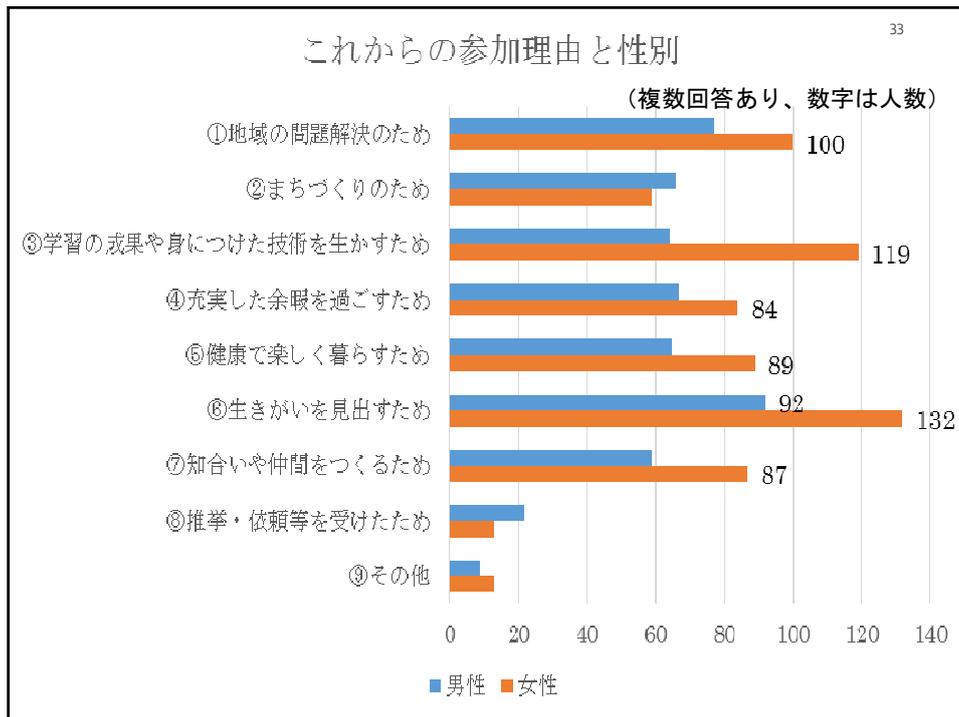
30

地域貢献活動の参加理由 (現状)

(複数回答あり、数字は人数)





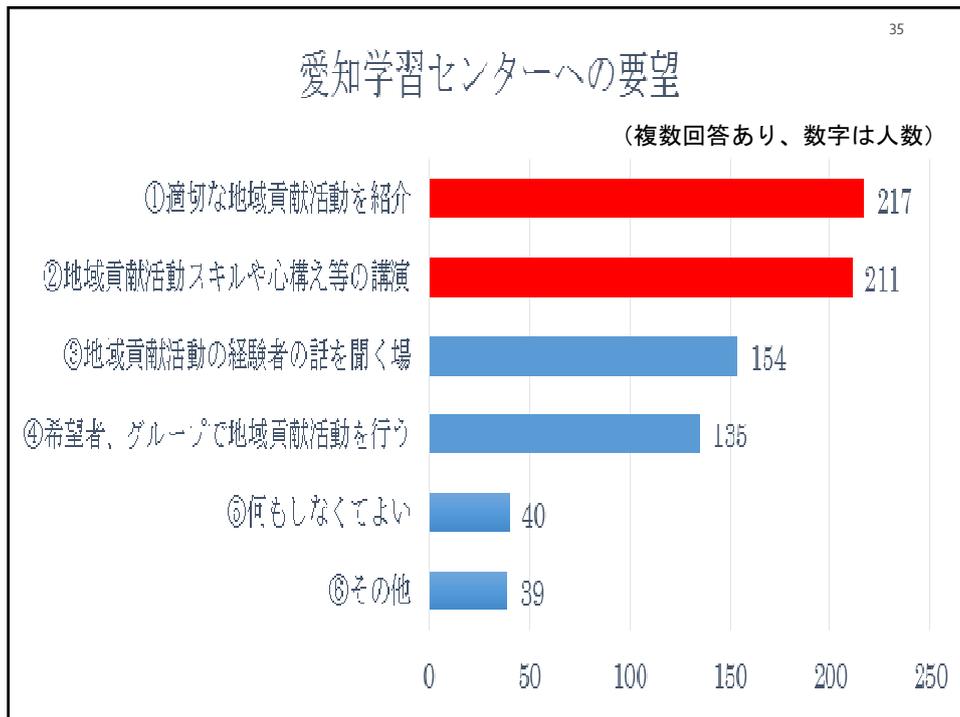


34

3-6. 学習センターへの要望

(質問14)

内容：愛知学習センターへの要望はありますか



36

4. まとめ

- 半数以上の学生が地域貢献活動の経験があり、その経験者は高年齢層に多い。
- 参加経験のある分野は「保健」「子ども」関連が多く、高齢者を対象とした分野は、多くはなかった。
- 活動参加経験、参加分野において年代、性別による差がみられた。

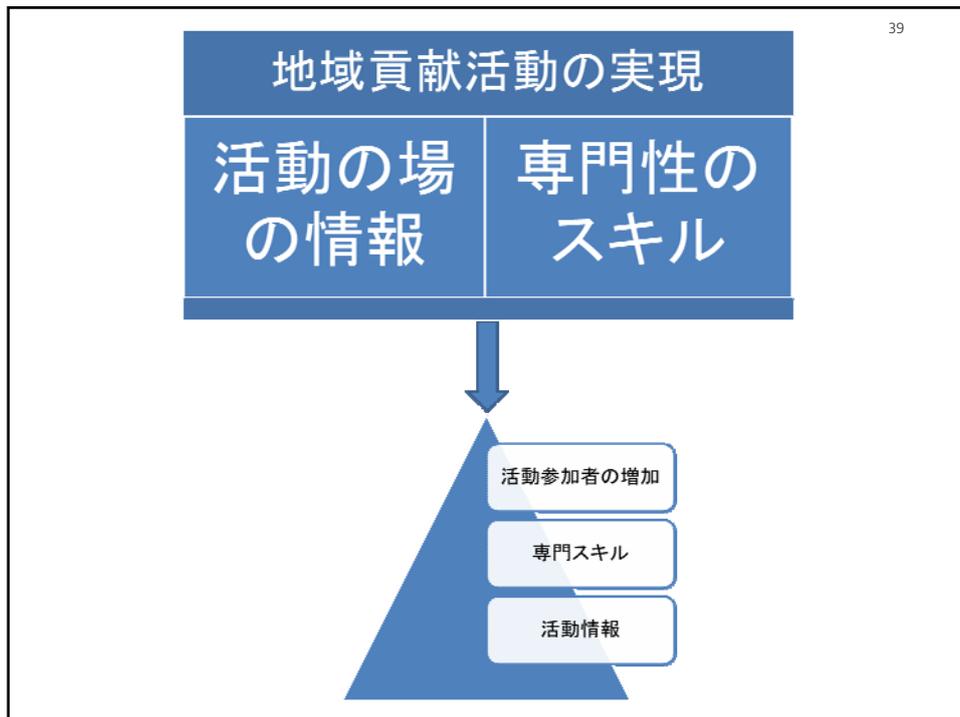
37

- 活動経験のある者にとっての活動上の問題は「参加する人手の不足」
- 参加経験のない者が不参加の理由として挙げたものは、「時間的余裕がない」「情報が入手できない」
- 参加を実現するための必要要件は、「時間的余裕」と「活動に関する情報」

38

地域貢献実施に向けての提言

項目	現状	方向性
対象	若年層の活動経験が少ない	熟年層、高齢層に加えて、若年層にも積極的に呼びかけを行う
情報①	活動に関する情報がないことが活動経験の有無にかかわっている	既に活動している放送大学生からの活動内容、活動地域等の情報を得る。
情報②	他大学においては既に地域貢献活動が行われている	既に活動している大学へアプローチし、地域貢献情報を得る
スキル	スキルがないことが地域貢献活動への経験のなさにつながると感じている学生がいる	必要とされるスキルを取得できるよう学習センターで研修会や学習会の機会を設ける



- 40
- ### 今後の課題
- 今回の結果を受け活動を行うにあたり参加者の募集方法をどのように行うかが課題になる。
 - 通信制大学であるが故に学生同士の横のつながりが弱く、大学で実施されている事項の情報を確実に届ける方法を検討する必要がある。

41

本アンケート調査の限界

- 今回の回収率が低率であった理由は学生にとって「地域貢献」というものへの関心が高くなかったあるいは、「地域貢献」の意味が十分理解されなかったことにあるのかもしれない。
- 関わり方あるいはその内容を問うものとなっていないため、具体的な活動内容が把握できなかった。そのため、設問に例を挙げておけば、回答しやすく、回答の内容が統一されたのではないであろうか。

42

- 以上のことから、本アンケートの限界は低回収率であったために正確性の度合いと、内容の一致がどの程度なのかの検証ができないことである。
- アンケート結果から、活動を実現するために必要な事項として「スキル」があった。本アンケートの基本事項には、性別・年齢が含まれているが、職歴や資格の取得状況は含まれていない。

43

謝 辞

- アンケートにご協力頂いた学生の皆様、
- アンケートの発送・回収にご協力頂いた
愛知学習センターの事務所の方々、
- また、アンケート分析にアドバイス頂き
ました服部所長に、この場を借りまして
感謝を申し上げます。

44

参考文献

- 平成12年度版 厚生白書
- 平成18年版 国民生活白書

